

## (5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

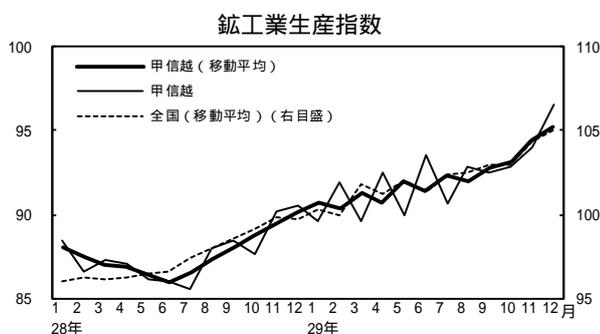
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 11 月)	今回 (平成 30 年 2 月)	
景況判断	緩やかな回復基調	緩やかに回復	
鉱工業生産	持ち直しの動き	持ち直し	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

10 - 12 月期には、「電子デバ、電気・情報通信」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、国内外の設備投資需要等を背景に増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、増加した。「輸送機械」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子デバ、電気・情報通信	42.8	0.1	2.8	1.1	4.0	1.5
汎・生産・業務用機械	17.9	1.7	5.0	0.1	2.3	1.7
石油・石炭製品、化学、プラ製品	10.5	0.8	0.9	0.5	2.3	5.2
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.6	0.1	1.3	0.7	0.2	2.5
輸送機械	7.1	1.3	0.8	2.6	3.9	8.8
鉱工業	100.0	0.0	2.7	0.4	1.2	2.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 22 年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び甲信越の太線は中心 3 か月移動平均。

直近月は 2 か月平均。

3. 甲信越は内閣府にて算出。

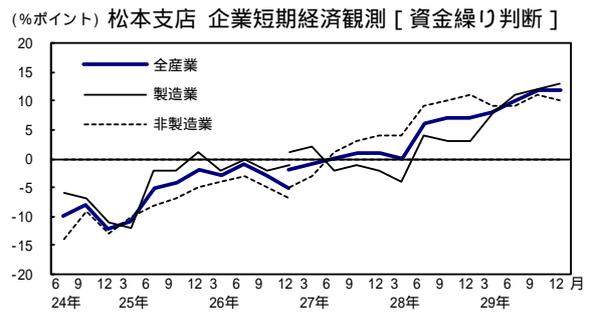
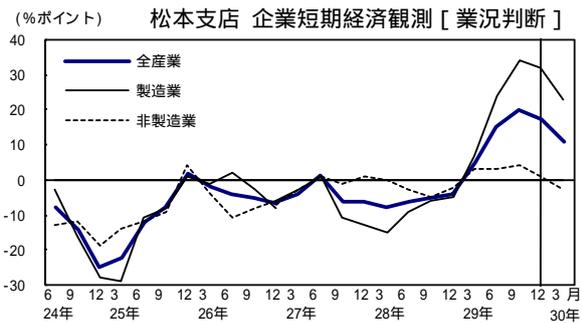
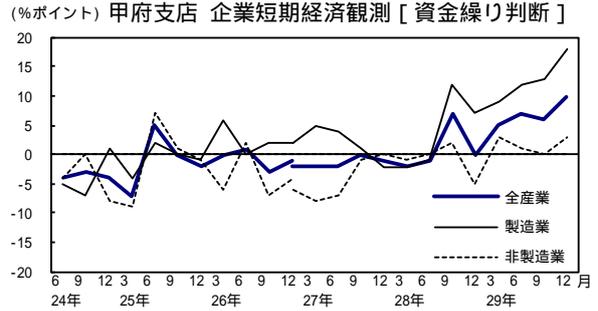
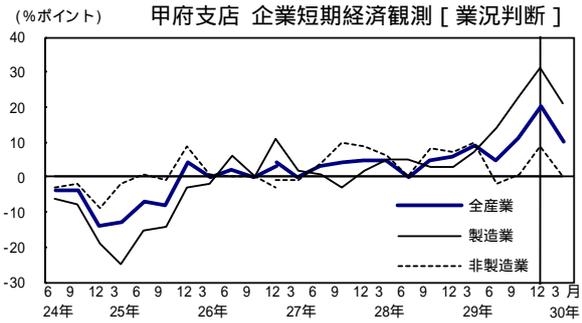
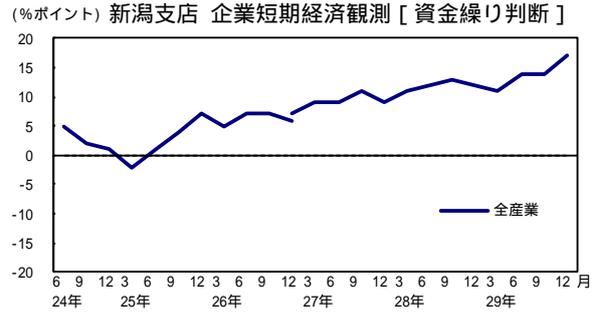
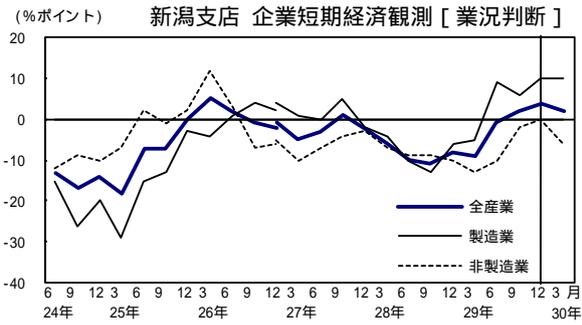
(2) 日銀短観における新潟支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

甲府支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

松本支店管内の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

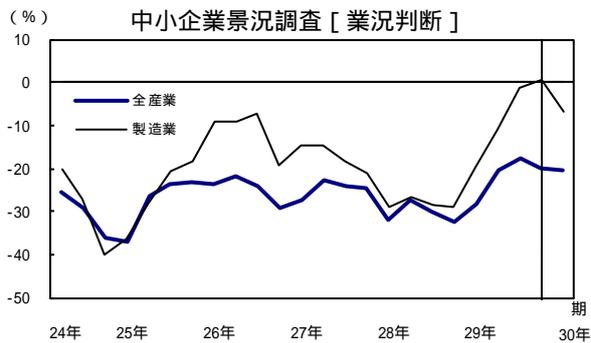
(5) 甲信越

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

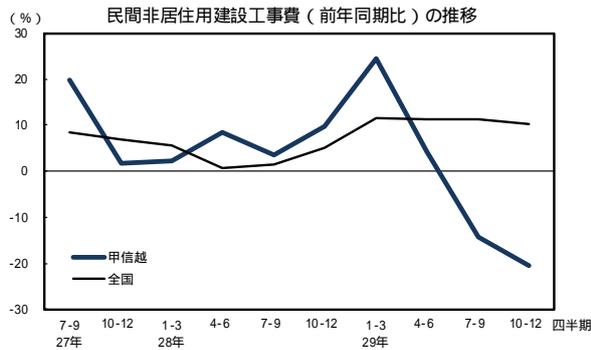


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

## 景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[企業動向関連（現状）]

「当地では、製造業を中心に改善傾向にある。特に、自動車、半導体関連企業は好調なところが多い。ただし、非製造業は消費関連を中心に、弱い動きが続いている（金融業）」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に減少している。



(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

## 企業短期経済観測調査 [設備投資（12月調査）]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度値
全産業		
新潟支店	12.2	4.6 (1.6)
甲府支店	14.4	29.2 (4.6)
松本支店	5.2	7.7 (1.1)
製造業		
新潟支店	20.5	2.6 (6.5)
甲府支店	11.1	53.6 (7.6)
松本支店	2.1	10.3 (1.1)
非製造業		
新潟支店	5.3	6.4 (2.4)
甲府支店	18.6	0.2 (0.5)
松本支店	21.3	3.4 (1.2)

(備考) ( )は前回(9月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

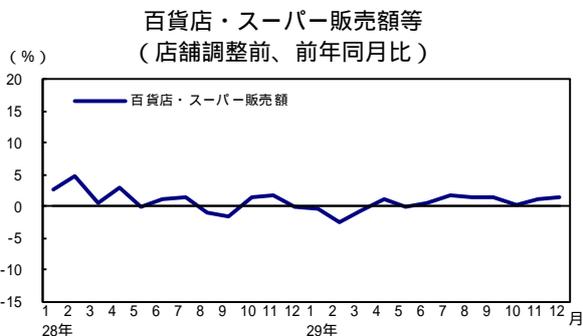
10月は前月比0.3%増、11月は同1.7%増、12月は同0.3%減となった。

百貨店・スーパー販売額

10月は、飲食料品が好調だったため、前年を上回った。11、12月は、飲食料品やその他の商品等が好調だったため、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[家計動向関連（現状）]

「新規やフリーの客が増加傾向にないなかで、今月中旬からの大雪や寒波で来客数、売上共に、大きく影響を受けている。寒波は来月も続くようで、売上の回復は見込めない(百貨店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	0.7	0.3	1.7	0.3
百貨店・スーパー(*2)	0.8	0.1	1.0	1.3
乗用車(*3)	0.4	4.9	0.8	5.3
(季節調整値)(*3)	2.8	1.1	2.3	1.5

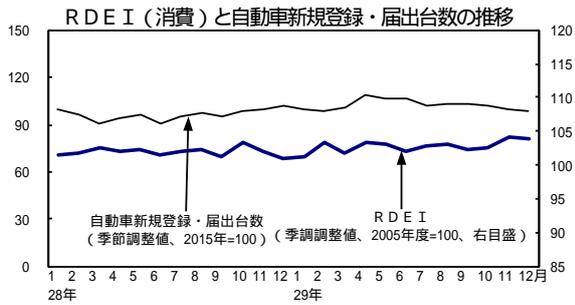
(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

店舗調整前、前年同期(月)比(%)

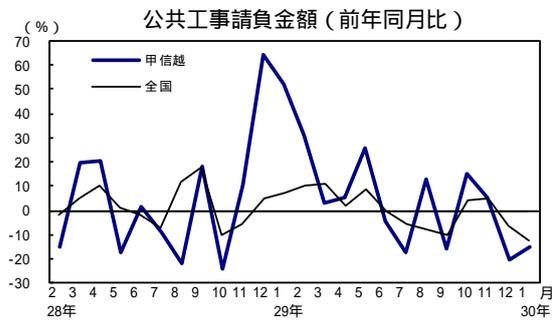
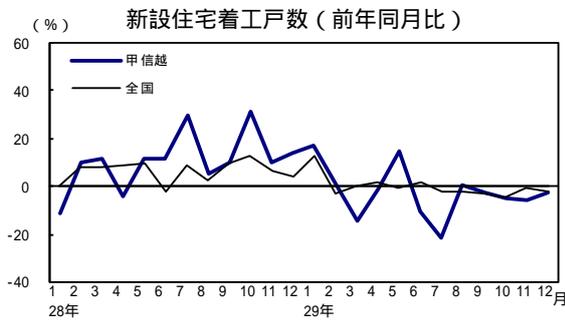
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(5) 甲信越



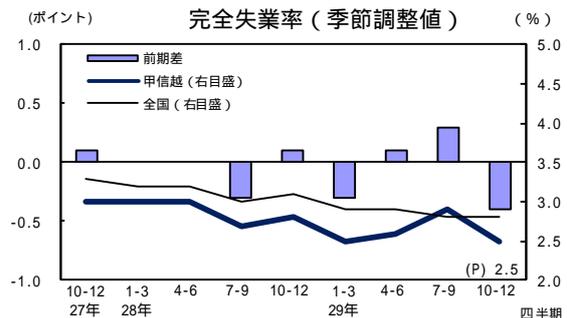
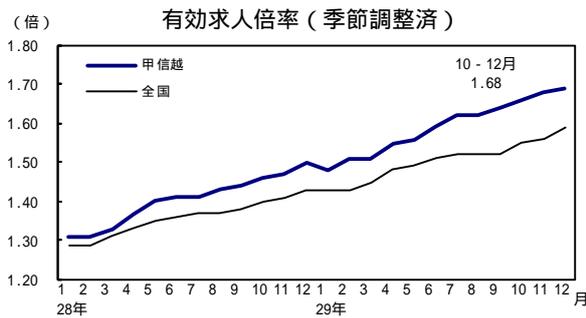
(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。  
2. 10 - 12月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

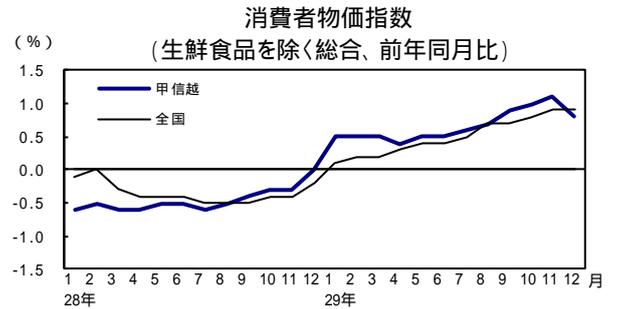
「求人は、特に広域的に活動する企業を中心に活発である。求人倍率も高水準で推移している。新規求職者は、前年比1.3%の微増であるが、ミスマッチによる人手不足の状況は変わらない(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	51	70	56	56	21
(前年比)	26.1	32.1	14.3	3.7	50.0
負債総額	153	206	63	106	59
(前年比)	4.1	135.4	81.5	21.2	223.6



(備考) 甲信越は内閣府にて算出。

#### 景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- ・成人式以降の気温が低いいため、高齢客の来店が少ない。リピート客の再来店のためのプロモーションを考えているが、販促手段が見つからない(美容室)

##### <先行き>

- ・店舗や工場の設計依頼が増えてきており、今月の仕事量を維持できるとみている(設計事務所)

#### 景気ウォッチャー調査(季節調整値)

